

静岡文化芸術大学 図書館・情報センターだより

新 知 知 温

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2014.7 Vol.24

平成26年7月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
 〒430-8533 浜松市中区中央二丁目1番1号
 TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125
<http://www.suac.ac.jp/library/>

Contents

■表紙

『手桶の文』————— ①

■図書館散歩

わたしの読書体験& 本にまつわる思い出 ——— ②

文化政策学部 国際文化学科 教授
鈴木 元子

立ち読みと研鑽の日々 ——— ③

デザイン学部 メディア造形学科 教授
佐藤 聖徳

■シリーズ

図書館・情報センターを使いこなそう!

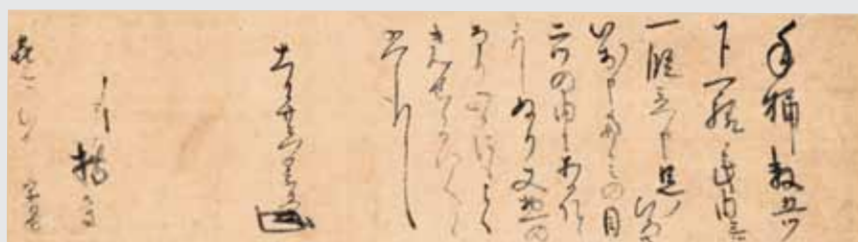
新聞記事データベース ——— ④

■知っていますか? こんなサービス

購入希望(リクエスト) ——— ⑥

■巻末

図書館ニュース ——— ⑧



『手桶の文』 喜三宛、表千家不審菴蔵

「手紙で読む利休の生涯」同朋舎メディアプラン 2007. [791.2/Se 71]

千利休(1522~1591年)は、安土・桃山時代の茶人で、茶湯大成者・茶道創始者・茶聖などといわれ、現在も京都にある表千家・裏千家・武者小路千家の茶道家元の祖であるだけでなく、利休箸や利休丸壺などといった茶道具にもその名が残っています。

『手桶の文』は、現在、表千家に記三作真塗手桶水指の添状として伝わっています。「手桶を五つ注文するので届けてください。そのうち三つは特別急いで届けてください。足の幅は、以前注文したように畳目二つ以内にして、塗の具合も全体の形もじゅうぶんに吟味して作ってください。よろしく願います。」との内容で、茶道具の一つである手桶の水指(点前の時に、釜に補給する水や茶碗・茶筌をすすぐ水を入れておく壺の類)を千利休が堺の塗師記三へ発注した書状です。

手紙には月日の日付が書かれていても、年が書かれていないことが多くあります。この書状も「十一月廿三日」の日付はあるのですが、何年の手紙であるかはわかりません。このような場合には、内容や花押などからおおよその年代を推測することになります。この書状は亀判といわれる花押が用いられています。したがって、おそらくこの書状は千利休が50歳代の後半から60歳代に入る天正七年から天正十年前後のものだと考えられます。

参考文献

- ・『角川茶道大事典』. 角川書店, 2002. [791.03/Ka 14]
- ・『利休大事典』. 淡交社, 1989. [791.2/R 42]
- ・『手紙で読む利休の生涯: 解説』. 同朋舎メディアプラン, 2007. [791.2/Se 71]



文化政策学部 国際文化学科 教授

鈴木 元子

Suzuki Motoko

本文中に登場した資料

P.クロポトキン(著);高杉一郎(訳) 『ある革命家の思い出』 [289.3/Kr 7/1-2]
バーネット(著);若松幾子(譯) 『小公子』 [081/1/95/R331-1]
バーネット(著) 『小公女』 [837.7/B 93]
バーネット(作);山内玲子(訳) 『秘密の花園』 [933.7/B 93/1-2]
L.M.モンゴメリ(原作);松本侑子(訳) 『赤毛のアン』 [933.97/Mo 38]
L.M.オルコット(著);小泉龍雄(訳注) 『若草物語』 [837.7/E 61/1]
ウィーダ(作) 『フランダーズの犬』 [837.7/O 31]
マークトウェイン(著);柿沼孝子(訳) 『トム・ソーヤーの冒険』 [938.68/Tw 1/6]
パウル・バック(著);大久保康雄(訳) 『大地』 [908/Se 223/20]
ユコ(著);斎藤正直(訳) 『レ・ミゼラブル』 [908/Se 229/13]
スタンダール(著);藤原武夫(訳) 『赤と黒』 [953.88/St 4/1]
トルストイ(著);中村白樂(訳) 『アンナ・カレーニナ』 [908/Se 223/11]
C.プロンテ(著);小泉龍雄(訳注) 『ジェイン・エア』 [837.7/E 61/3]
ミッチェル(著);大久保康雄;竹内道之助(訳) 『風と共に去りぬ』 [933.97/Mi 59/1-2]
ジイド(著);新庄嘉幸(訳) 『狭き門;車輪の下;赤い小馬』 [908/Se 229/25]
ヘルマン・ヘッセ(著);高橋健二(訳) 『車輪の下』 [948/H63/2]
ドストエフスキー(著);工藤精一郎(訳) 『罪と罰』 [988/D 88-1/7]
カミュ(著) 『異邦人』 [953.7/C 14]
フランツ・カフカ(著);中井正文(訳) 『変身』 [943.7/Ka 16]
加島祥造(著) 『英語の辞書の話』 [833/Ka 22]
鈴木元子(著) 『ソール・ペローと階級』ユダヤ系人々の階級上昇と意識の揺らぎ [930.278/B 33]
フォークナー(著);加島祥造(訳) 『八月の光』 [933.7/F 16]
加島祥造(著) 『マラマッド短編集』 [933/Ma 39]
マラマッド(著);加島祥造(訳) 『アシスタント』 [933/Ma 39]
ソール・ペロー(著);太田俊(訳) 『宙ぶらりんの男』 [933.97/B 33]
ソール・ペロー(著);大橋吉之輔;後藤昭次(訳) 『犠牲者』 [933.7/B 33]
Saul Bellow(著) 『Henderson the Rain King』 [933.97/B 33-4]
ベティ・フリーダン(著);三浦富美子(訳) 『新しい女性の創造』 [367.2/F 47]
ボーヴォワール(著);生島遼一(訳) 『第二の性』 [958.78/B 31/6-7]

わたしの読書体験 & 本にまつわる思い出

振り返ってみると、少女時代のわたしは「本の虫」だったようです。現在ではもうあまり使われない言葉かもしれませんが、アメリカの作家ソール・ペローは“bookish”という言葉を使っています。彼は本の好きで、その逸話がいくつも残っています。たとえば、父親に不承不承ゆるしてもらって大学に入学したものの、「経済学201」の講義に履修登録しながら、イプセンとバーナード・ショーを読むのにそれを費やしたとか、英詩の講義を履修したのに、詩の歩格やスタンザに飽きて、クロポトキンの『ある革命家の思い出』を読んでいたなどのエピソードです。そして、本を読みすぎて疲れた眼を癒やすために、ダウンタウンのクラブに行き玉突きや卓球をしたといっています。でも、わたしが自分を本の虫だと思うのは小学校のころです。校舎の2階に図書室がありました。最初は、先生に勧められて本を借りたのですが、それが習慣化してしまい、低学年用の本(『小公子』、『小公女』、『秘密の花園』、『赤毛のアン』、『若草物語』、『フランダーズの犬』、『トム・ソーヤーの冒険』)からはじめて、パウル・S・バックの『大地』やヴィクトル・ユーゴーの『レ・ミゼラブル』などの世界文学、シャーロック・ホームズ探偵小説、SF、世界の偉人伝記シリーズなど、最後にはもう読み物で借りていないものもなくなってしまったほどです。6年生くらいになると、抄訳ではない原書の翻訳本を読みはじめ、むずかしいながらもスタンダールの『赤と黒』を読破し、トルストイの『アンナ・カレーニナ』は好きにはなれませんでした。シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』とマーガレット・ミッチェルの『風と共に去りぬ』に関してはいたく感情移入しながら味読したことを覚えています。この二作品は、本学で担当している英文文学史の授業で時折取り上げています。ただ悲しいのは、当時、自分の心に思い描いたジェイン・エア像と、今日の映画で見るジェイン・エア役の女優さんとのイメージが一致せず、複数の映画が製作されているにもかかわらず、どの映画にも満足できないことです。『風と共に去りぬ』も原作と映画とは大きく異なり、映画はハリウッドの最高傑作のひとつに数えられ、前面に事業に着手し成功していく新しい女性像を描き出していますが、原作の小説で面白いのは男女の心理の動きの方です。そういうふうと考えてみると、若いころに1ページ、2ページと、ページを繰りながら、想像力をたくましくして活字を読み進めていったことは、その後の人生を豊かにしてくれた貴重な体験でした。

中学生になると中間・期末テストがはじまり、何人中何番という結果が公表されるようになり、残念なことに読書には時間が割けなくなりました。ただ、主な日本文学作品には目を通していました。高校時代は水泳部に所属し、2年次には生徒会長も務めたために、忙しい3年間のはずでしたが、受験勉強そっちのけで読書はそこそこしていたようです。アンドレ・ジイドの『狭き門』、ヘルマン・ヘッセの『車輪の下』、ドストエフスキーの『罪と罰』、それから実存主義の作家であるサルトルや、カミュ(『異邦人』)、カフカ(『変身』)に入っていました。

大学では英語・英文科にいましたが、そのころの授業はすべて「通年授業」だったので、1年間で長編小説をひとつ、つまりペンギンのペーパーバックを1冊読んでいくという授業でした。1年のときは、加島祥造先生の英語の辞書についての授業が必修科目でした。すると、そのときの授業内容が翌年には、単行本『英語の辞書の話』となって講談社から出版されました。ある日、米文学の授業の教室で学生たちを前に、その本を片手に先生が出版報告をされたときの1シーンが、わたしの記憶に鮮明に残っています。先日、わたしも『ソール・ペローと階級』を出版した際、授業でその本を見せながら、その思い出を学生たちに語りました。当時、ウィリアム・フォークナーを研究していた加島先生が翻訳された『八月の光』(新潮文庫)やヘミングウェイの小説を読むうちに、さらに先生訳のバーナード・マラマッドの『マラマッド短編集』や『アシスタント』(新潮文庫)にも手が伸びたのです。これが、わたしとユダヤ系アメリカ作家との出会いでした。それまでの白人男性アメリカ作家と違う“何か”を感じました。それがきっかけで、同じユダヤ系作家のソール・ペローの初期作品『宙ぶらりんの男』や『犠牲者』を読みはじめ、マラマッドよりもペローの方が自分にフィットすると思ったのです。その後、アメリカ学部留学で米文学の学びを経たのち、ペローの長編小説 Henderson the Rain King で卒業論文を書くことに決めたのです。

最後に、大学卒業後について少し触れますと、女性として自分のキャリアについて思い悩んでいたときに、ベティ・フリーダンの『新しい女性の創造』と、ボーヴォワールの『第二の性』をむさぼるように読みました。それが契機になって、フェミニズム批評に没頭した時期もあります。それも今では遠いむかしのことになり、現在は、アメリカ文学を階級の観点から批評するというのを研究テーマにしています。



デザイン学部 メディア造形学科 教授

佐藤 聖徳
Sato Kiyonori

本文中に登場した資料

小林重順〔著〕
『造形構成の心理』
[701.4/Ko 12]

東山魁夷〔著〕
『風景との対話』
[720.4/H 56]

東山魁夷〔著〕
『唐招提寺への道』
[721.9/H 55]

エドワード・ホッパー〔画〕
『エドワード・ホッパー』
[723.35/H 86]

高村光太郎〔著〕、穴沢一夫ほか〔編集〕
『高村光太郎彫刻全作品』
[710.8/Ta 45]

東京芸術大学美術解剖学教室〔編〕
『新編美術解剖図譜』
[701.5/U 14]

ヴィクター・パバネック〔著〕、阿部公正〔訳〕
『生きのびるためのデザイン』
[757/P 22]

レイモンド・ローウィ〔著〕、藤山愛一郎〔訳〕
『口紅から機関車まで：インダストリアル
デザイナーの個人的記録』
[501.83/L 82]

ギリアン・ネイラー〔著〕、利光功〔訳〕
『パウハウス』
[707/N 59]

豊口協〔著〕
『IDの世界』(SD選書, 93)
[501.83/To 84]

山本学治〔著〕
『素材と造形の歴史』(SD選書, 9)
[511.4/Y 31]

木村重信〔著〕
『現代絵画の解剖』(SD選書; 14)
[723.07/Ki 39]

石井幹子〔著〕
『環境照明のデザイン』(SD選書; 188)
[545.6/I 75]

栄久庵憲司〔著〕
『道具考』
[383/E 44]

ブルーノ・ムナーリ〔著〕、小山清男〔訳〕
『芸術としてのデザイン』
[757/Mu 32]

小原二郎〔著〕
『木の文化』(SD選書; 67)
[713/Ko 27]

西岡常一〔著〕
『木に学べ：法隆寺・薬師寺の美』
[521.81/N 86]

わぐりたかし〔著〕
『地団駄は島根で踏み行て、見て、触れる「語源の旅」』
[812/W 14]

立ち読みと研鑽の日々

生まれ育った横浜に、幼馴染で仲の良かった同級生の叔父さんが経営する大きな本屋がある。すごい親戚がいるものだ、と感心しながら、大学を卒業するくらいまで、本当によくその店で立ち読みをした。立ち読みは適度に集中できるところが、とても心地良かった。伊勢佐木町にあるその店は、当時地下一階にレストランがあり、大好きな紙とインクの匂いに、カレーやパフェの香りも混じる、なんともいえない雰囲気があった。

美術研究所に通っていた受験浪人生のころは、芸術理論を固めようと、この本屋で芸術論書や美術書を、手当たり次第に読みあさった。『造形構成の心理』(小林重順著)は、日々書き重ねる作品表現の突破口になったのを記憶している。『風景との対話』、『唐招提寺への道』(共に東山魁夷著)は、絵を描くことにこんな視点があるのかという驚きで、大きな影響を受けた。東山画伯は唐招提寺の襖絵を描いていて、他の作品とともに、テレビなどで制作風景を目にすることができた。そして店にも大きなポスターが貼ってあった。またそれとは対照的な表現をする、近代アメリカ具象画家『エドワード・ホッパー』の画集も、東山画伯と同じように、光の描写に魅せられた一冊だった。研究所では粘土の塑像、いわゆるデザインや彫刻のための粘土の習作も随分作った。そこで教わった教師が彫刻家だったせいもあって、人の頭部や手などを細かく指南された。

ある日、研究所の蔵書の中に『高村光太郎彫刻全作品』の文字を見つけ、何気なく手にとった。高校美術の教科書で作品を見た覚えはあったが、改めてそのすばらしさに目が釘付けになり、さっそく続きを読もうと、伊勢佐木町に寄ったのだがあいにく無く、思わず注文してしまったのを覚えている。このとき購入した作品集は、その後、木材の彫刻制作やデザインモデルの造形の際の大切なバイブルとなっている。

大学生になってからも、東京神田の神保町や駿河台も加わり、立ち読みの秘かな楽しみは続いた。授業で初めて聞いた事象を、もっと詳しく知りたくて他分野の専門書棚を歩き回る日々。大学での美術解剖学の授業が面白く『新編 美術解剖図譜』は大変興味をそそられ、あげくには臨床医学書や医学解剖書のコーナーで足を止め読みふけたりもした。

そしてこのころから、立ち読みの自分ルール違反をし始める。立ち読みに、ルールなどははっきりと決めていたわけではなかったが、いつしか自分でそんな風に思っていた。実は、アルバイトで懐がちよっと暖かくなり、立ち読みで気に入った本を買い集めるようになってきた。でも、自宅の書棚に置いていつでも読み直しができる本と、本屋で気に入って集中して読み、そこで別れる楽しみとは少し別だった。デザインを学ぶための基本書として必携の本が、少しずつ書棚を賑わせていくことになる。『生きのびるためのデザイン』(ヴィクター・パバネック著)、『口紅から機関車まで』(レイモンド・ローウィ著)、『パウハウス』(ギリアン・ネイラー著)などは、興味を持ち始めたデザインの世界を覗くために最適の書籍だった。これは現在でも必読の書といえる。そして建築関係の定番書であるSD選書で、『IDの世界』(豊口協著)、『素材と造形の歴史』(山本学治著)、『現代絵画の解剖』(木村重信著)、『環境照明のデザイン』(石井幹子著)、『道具考』(栄久庵憲司著)などは何度も読み返した。今では古さを感じるところもあるかもしれないが、日本のデザインの黎明を読み解くにはとても興味深い。

大学の図学授業の最中、担当の教授にご自分で翻訳された本を紹介して頂いた。『芸術としてのデザイン』(ブルーノ・ムナーリ著、小山清男訳)であった。さっそく放課後に駿河台に寄って得意の立ち読みをする。著者のムナーリはプロダクトデザイナーだが、子供のための絵本も描き、コンテンポラリーアート表現もする多彩なマルチデザイナーだった。そしてこの著者に憧れてしまったのは、言うまでもなかった。学年が上がって、自己表現のための得意の素材を見つけた。木材だった。『木の文化』(小原二郎著)は大きな影響を受け、小原二郎の木に対してのユニークな見方に心を動かされる。大学を修了し企業に勤めるようになって、木に対する興味は強く、相変わらず立ち読みにふけた。『木に学べ：法隆寺・薬師寺の美』の著者の西岡常一氏は、木を旨とする者たちにとって、神様とも言えるような宮大工である。もちろんこの本は、すぐに自分ルール違反をし、購入した。

先日、とても久しぶりに横浜の伊勢佐木町に行った。もちろん書店に寄ってみるが、このころは、立ち読みを始めて15分と経たないうちに肩や首や腰が痛くなり、目もやたらと疲れるのだ。やるせない気持ちになりながら、レジの前の平置きされた本に目をやると、『地団駄は島根で踏み』(わぐりたかし著)という、なんともこのときの気持ちを代弁してくれるような、そして不思議なタイトルが目に入る。さっそく手に入れて、近くのスターバックスに入り、コーヒーと共に一気に読み干した。読み終えたカフェには、書店の1階で漂っていた匂いとは違う、甘い香りが満ちていた。

新聞記事データベース

図書館・情報センターでは、各種のオンラインデータベースを提供しています。今回は、そのうち新聞記事データベースを紹介します。

・聞蔵Ⅱビジュアル

聞蔵Ⅱビジュアルは、1879年の創刊号から今日までの紙面から約1,300万件の記事・広告が検索できる朝日新聞の新聞記事データベースです。明治・大正・昭和初期までの紙面イメージを見られるほか、静岡遠州版などの詳細な地域記事も収録されています。



朝日新聞1985～週刊朝日・AERA	1985年から当日までの記事が検索できます。
朝日新聞縮刷版	朝日新聞の創刊号から1989年までの紙面が検索できます。
知恵蔵	最新の現代用語約8,000語が収録されています。
人物データベース	各界の有識者を中心に経済人、政治家、研究者、文化人、スポーツ選手らを幅広く収録した人物データベースです。
歴史写真アーカイブ	主に満州事変前後から敗戦までの写真約1万枚が収録されています。戦場写真のほか、市民の生活を記録した写真も多数含まれています。
アサヒグラフ	1923年創刊から1945年までのアサヒグラフ約1,500冊をカラーでデジタル収録した、雑誌データベースです。

・ヨミダス歴史館

ヨミダス歴史館は、明治からの読売新聞記事 1,200 万件以上や人物情報が検索・閲覧できるデータベースです。キーワード1つで明治から平成までの激動の歴史を読み取ることができ、近現代史の研究や世相の移り変わりを探るのに便利です。



明治・大正・昭和	明治から昭和までの紙面を一つのキーワードで検索することができます。1874年の創刊号から1989年までの紙面イメージが収録されています。
平成	全文検索とキーワード検索が可能です。1986年9月からの記事テキストと、2008年からの切り抜き紙面が収録されています。
現代人名録	現代の内外のキーパーソン約26,000人の人物データベースです。当該人物の詳細データ画面から、同人物に関する記事をワンクリックで検索できます。
The Japan News	読売新聞社が発行している英字新聞で、2011年8月以降の邦文の関連記事とリンクが張っており、読み比べに便利です。また、英和辞書が付いているため、画面上で日本語訳を調べることができます。

・静岡新聞 plus 日経テレコン

静岡新聞 plus 日経テレコンは、地域密着で静岡県内のニュースを伝える「静岡新聞」と国内外の経済情報をカバーする「日本経済新聞」の記事とデータを必要な時に引き出せるハイブリッドなデータベースです。記事検索のほか、企業検索も可能です。学習や研究調査に加え、就職活動にも有効に活用できます。



記事検索	静岡新聞、日本経済新聞、日経産業新聞、日経流MJ（流通新聞）、日経プラスワン、日経マガジン、日経金融新聞、日経NEEDS統計データ、日経速報ニュースアーカイブ、プレスリリースデータベース、静岡県経済白書、静岡県主要企業情報
企業検索	日経会社プロフィール、企業決算、静岡新聞、静岡県主要企業情報
人事検索	日経WHO'S WHO
ニュース	日経速報ニュース、プレスリリース
きょうの新聞	日本経済新聞朝刊・夕刊、地方経済面、日経プラスワン、日経産業新聞、日経MJ（流通新聞）
データ&ランキング	調査・ランキング、マクロ経済統計、地域経済・都市データ、POSランキング
English Menu	Nikkei English News, Archive Search

・中日新聞・東京新聞記事データベース

東海地方を代表するブロック紙「中日新聞」と首都圏の地元紙として親しまれている「東京新聞」の各最終版、及び愛知・岐阜・三重県下の地方版の記事を検索・閲覧できます。地方版は「中日新聞」が愛知・岐阜・三重など6県で40以上、「東京新聞」が東京・神奈川・埼玉など1都6県で15以上の新聞記事430万件以上を収録しています。両紙とも地域に密着した地元記事を網羅しています。



中日新聞	愛知県版・岐阜県版・三重県版・滋賀県版・福井県版・長野県版、愛知県の全地方版、紀州版を除く三重県の全地方版、岐阜県の全地方版
東京新聞	東京都内最終版、東京・神奈川・埼玉・千葉・茨城・群馬・栃木・静岡東部の全地方版
切り抜きイメージ	2010年4月以降の中日新聞、東京新聞の全記事(面イメージ・広告・スポーツ記録などを除く)

【利用上の注意】

- ・上記の新聞記事データベースは学内限定のデータベースですので、学外の方は利用できません。
- ・学内ネットワーク経由の接続に限られますので、学内であればどこからでも利用できます。
- ・同時アクセス数に制限があるので、利用が終わったら速やかにログアウトしてください。
- ・他の人が利用している場合、利用することができません。しばらく時間をおいてから、再接続をしてください。

購入希望 (リクエスト)

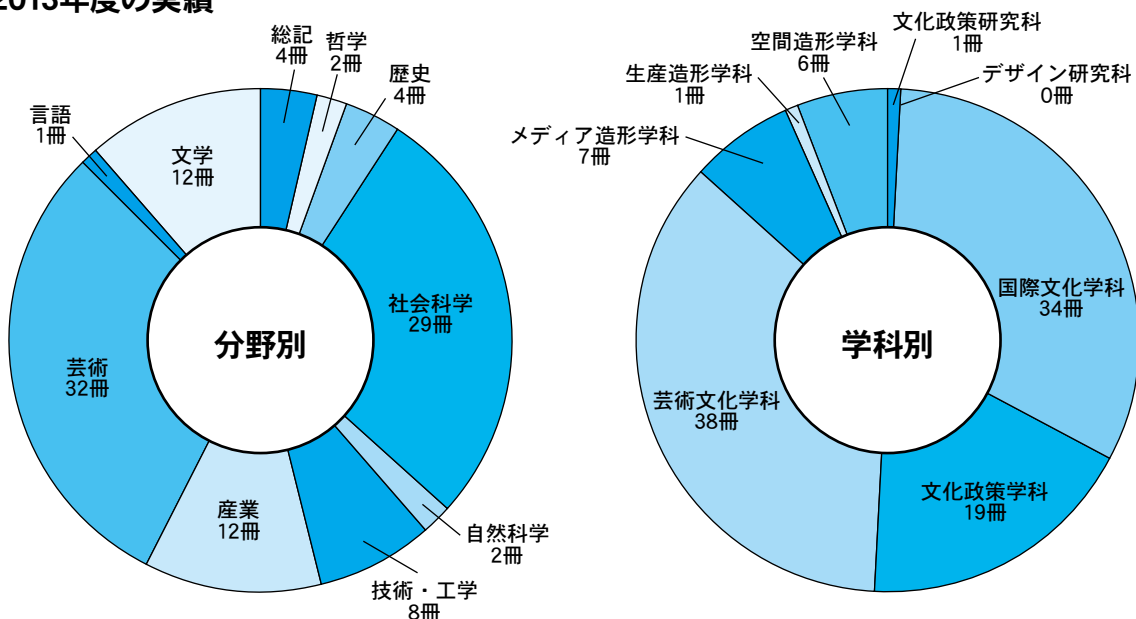
「読みたい本がない」「こんな本を置いてほしい」「論文を書くのに必要な本だけが高価だし…」と思ったことはありませんか？
そんなときは、購入希望(リクエスト)をしてください。

購入希望をするには、「購入希望図書申込書(3枚綴り)」に必要事項(図書の情報など)を記入して、カウンターに提出してください。希望図書の内容・予算等を検討の上、購入します。購入希望を提出した図書が利用可能になった時点で、メール(SUACメール)にてご連絡します。

申込みに際しての注意事項

- ※申込みは、「本学の学生」に限ります。
- ※雑誌・漫画類及び1点5万以上の高額図書を除きます。
- ※既に蔵書として所蔵している図書は購入出来ません。
- ※出版社、価格等不明な点がありましたら、カウンターでご相談ください。

◎2013年度の実績



刻印された暴力の痕跡を探る ～『暴力のオントロジー』

この本は、ゼミでの研究のために、教授に紹介していただいて知ることが出来た一冊です。また、実際にこの本で知ることができた知見は、私のこれ以降の研究に大きな示唆を与えてくれました。新しい視点を与えてくれたという意味で、非常に大きな一冊になったのです。

本書は、交換原理の中に潜んでいる暴力について書かれたものです。通常、交換原理は二者の間で行われる対等な行為であると思われています。しかし、本書ではそれが否定されます。実は二者の間には、媒介する抑圧された第三者の存在があるということです。これを、神話、貨幣、いわゆる「未開」な文化の持っている交換などの事例を通して、社会の中に刻印されている暴力の痕跡を探ってゆきます。

この中での定理は、「第三項排除理論」と呼ばれるものです。これは、はじめに書いたように社会の中の交換原理の中に、実は何かしらひとつのもの(第三項)が排除/抑圧されて存在しているというものです。暴力は、実際の明示的な暴力ではなく、交換される女性/貨幣などに形を変えて抑圧された第三項として存在し続けている。それこそ第三項排除、隠された暴力なのだと呼破しているわけです。

本書と比較しながら読むと良い本は、岩井克人の『貨幣論』でしょう。第三項排除理論の抑圧された一者としての貨幣、つまり負の面を刻印された貨幣と、存在の間を軽々と飛び越えてゆく華々しいトリックスターとしての貨幣の描き方の違いは対照的です。もし、はじめから本書を手取ることを敷居が高いと感じる方は、入門として同じく今村仁司の書いている『貨幣とは何だろうか』がおすすめです。また本書を読み、さらに視野を広げたいのであれば、本書の続編にあたる『排除の構造』がよいでしょう。また、『現代思想の系譜学』も様々な思想家への興味を開いてくれます。

【文化政策学部 国際文化学科 4年 松永明哲】

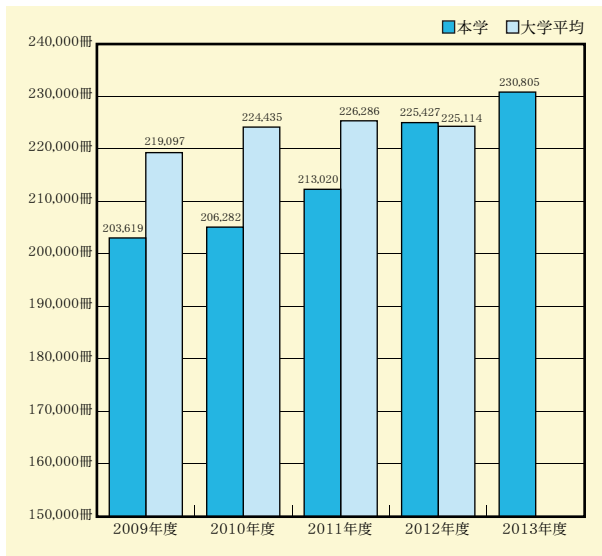
・購入図書一覧

請求記号	書名	請求記号	書名
007.35/G 76	ハッカーと画家：コンピュータ時代の創造者たち	629.23/L 44	モネの庭：あふれる花々の色彩(ベネッセ・ムック:Bises books)
069.021/Ta 78	地域を変えるミュージアム：未来を育む場のデザイン	629.23/Mu 79	モネが創った庭：画家ならではのアイデアインスピレーション洞察力それを支えた情熱
070.21/Ts 32	大阪の錦絵新聞	651.7/N 71	世界の林業：欧米諸国の私有林経営
081/C 64/1271	原爆神話の五〇年：すれ違う日本とアメリカ(中公新書:1271)	664.9/Ka 97	神聖なる海獣：なぜ鯨が西洋で特別扱いされるのか
140.4/O 63	面白いほどわかる!他人の心理大事典	675/N 14/2	ビジネス戦略がわかる10の物語 2(100円のコーラを1000円で売る方法:2)
176.034/Y 53	分類祭祀習俗語彙	675/N 46	遠足型消費の時代：なぜ妻はコストコに行きたがるのか?(朝日新書:287)
210.5/F 72	百姓一揆の歴史的構造 増補改訂版(歴史科学叢書)	689.21/N 71	新たな集客に挑む! インバウンドbusiness: 外国人旅行者の集客による市場開発、地域振興のための必携本
210.75/Ki 39	広島・長崎への原爆投下再考：日米の視点	699.1/Ka 48	放送法逐条解説 改訂版
253.07/G 67	原爆投下とアメリカ人の核認識：通常兵器から「核」兵器へ	701/W 34	象徴図像研究：動物と象徴
289.1/Sa 32	龍馬史(文春文庫:[い-87-1])	701.4/To 35	創造と狂気(講談社現代新書:567)
311/A 31	新しい野蠻主義：革新思想を語る	702.07/O 37	すぐわかる「作家別」アール・ヌーヴォーの美術 改訂版
317.6/Sh 48	マイナンバーがやってくる：共通番号制度の実務インパクトと対応策	706.9/A 41	Don't cross the bridge before you get to the river : Francis Alys
318.6/Su 96	地域再生：人口減少時代の地域まちづくり	721.5/O 23/1	光琳畫譜 乾
319.1/Ko 73	文化外交の最前線にて：文化の普遍性と特殊性をめぐる24のエッセイ	721.5/O 23/2	光琳畫譜 坤
319.1/Sa 85	自治体の姉妹都市交流	721.8/Ka 88	北斎論
319.1021/Ku 49	「韓流」と「日流」：文化から読み解く日韓新時代(NH-Kブックス:1160)	721.9/C 42	文明開化の錦絵新聞：東京日々新聞・郵便報知新聞全作品
323.01/O 54	危機の憲法学	723.1/I 72	石田徹也全作品集
327.13/J 64	アメリカ人のみた日本の検察制度：日米の比較考察	723.35/Mo 33	睡蓮
327.6/I 44	冤罪弁護士	723.35/Mo 33	モネ(名画に隠れた謎を解く!)
327.67/Ko 12	裁判員裁判と死刑判決 増補版	723.35/Mo 33	モネ：「睡蓮」への歩み(Rikuyosha art view)
327.85/N 36	よみがえれ少年院の少女たち：青葉女子学園の表現教育24年	723.35/Mo 33	モネの庭へ：ジヴェルニー・花の桃源郷(カルチャー紀行)
327.953/I 89	誤判を生まない裁判員制度への課題：アメリカ刑事司法改革からの提言	723.35/Mo 33	モネの庭：花々が語るジヴェルニーの四季
327.953/Ko 12	残虐で異常な刑罰、公平な陪審裁判(デュー・プロセスと合衆国最高裁:1)	757.04/H 31	デザインのめざめ(河出文庫:[は16-1])
327.953/V 67	アメリカの刑事陪審：その検証と評価	762.8/N 32	国家と音楽家
332.107/Mo 82	里山資本主義：日本経済は「安心の原理」で動く(角川oneテーマ21:C-249)	768.49/Ko 95/1	幸若舞曲研究 第1巻
334.31/H 71	人口減少社会という希望：コミュニティ経済の生成と地球倫理(朝日選書:899)	768.49/Ko 95/2	幸若舞曲研究 第2巻
335.5/Ma 77	企業が「帝国化」する：アップル、マクドナルド、エクソンへ新しい統治者たちの素顔(アスキー新書:234)	768.49/Ko 95/3	幸若舞曲研究 第3巻
338.5/W 46	Q&Aマイナンバー法成立で銀行実務がどのように変わるか	768.49/Ko 95/4	幸若舞曲研究 第4巻
361.3/I 44	暴力のオントロジー	768.49/Ko 95/5	幸若舞曲研究 第5巻
361.5/Sa 25	キャラクター精神分析：マンガ・文学・日本人(双書Zero)	768.49/Ko 95/6	幸若舞曲研究 第6巻
365/N 28	生活大航海、未来生活への指針：未来生活懇談会報告書	768.49/Ko 95/7	幸若舞曲研究 第7巻
366.38/H 98	インドの債務児童労働：見えない鎖につながれて(世界人権問題叢書:50)	768.49/Ko 95/8	幸若舞曲研究 第8巻
369.36/E 59	原子力損害賠償制度の研究：東京電力福島原発事故からの考察	770.67/Sh 95/1	松竹百年史 本史
369.42/I 89	子ども・子育て支援法と保育のゆくえ(安倍新政権の論点:7)	770.67/Sh 95/2	松竹百年史 演劇資料
371.42/W 12	実録高校生事件ファイル	770.67/Sh 95/3	松竹百年史 映像資料
371.45/Ka 93	子どもと悪(岩波現代文庫:社会:257。「子どもとファンタジー」コレクション:4)	778.21/So 44	カオスの神、園子温
376.1/F 64	幼稚園と保育所は一つになるのか：就学前教育・保育の課程と子どもの発達保障	778.21/So 44	園子温映画全研究：1985-2012
377.21/N 71/2010	中退白書：高等教育機関からの中退 2010	780/Ko 93	実践スポーツビジネスマネジメント：劇的に収益力を高めるターンアラウンド(事業再生)モデル
387.4/Ma 92	地藏と閻魔・奪衣婆：現世・来世を見守る仏(民衆宗教を探る)	783.7/A 32	プロ野球コンバート論
493.72/N 87	SSTの技法と理論：さらなる展開を求めて	783.7/F 57	日本のチームをつくる：地域密着が成功の鍵：プロ野球とリーグで社長を務めたただ一人の男の改革マネジメント
495.46/A 64	いのちの乳房：乳がんによる「乳房再建手術」にのぞんだ19人	810.7/Ko 51/2012	海外の日本語教育の現状：海外日本語教育機関調査 2012年度
504/Ta 84	FABに何が可能か：「つくりながら生きる」21世紀の野生の思考	902.09/Sh 87	人間と動物をめぐるメタファー(アウリオン叢書:06)
518.85/Ta 93	パークマネジメント：地域で活かされる公園づくり	902.3/A 81	時間ループ物語論：成長しない時代を生きる
523.3/H 38	図説アール・ヌーヴォー建築：華麗なる世紀末(ふくろうの本)	908.3/B 65/1	新編パベルの図書館 1: アメリカ編
526.49/Y 31	Art in Hospital：スウェーデンを旅して	908.3/B 65/2	新編パベルの図書館 2: イギリス編1
526.67/O 28	店舗設計製図講座	908.3/B 65/3	新編パベルの図書館 3: イギリス編2
526.67/Ta 68	スケッチから学ぶ新しい飲食店づくり：30業種のコンセプトと120枚のスケッチ&プラン(店舗設計基礎講座)	908.3/B 65/4	新編パベルの図書館 4: フランス編
526.67/Ta 68	新しい飲食店づくりAtoZ：30業種のキッチンプラン/リスト&ディテール	908.3/B 65/5	新編パベルの図書館 5: ドイツ・イタリア・スペイン・ロシア編
589.2/N 86	相対性コムデギャルソン論：なぜ私たちはコムデギャルソンを語るのか	909.3/N 31	日本童話の新研究
601.1/F 56	地域を変えるソフトパワー：アートプロジェクトがつかなく人の知恵、まちの経験	914.6/Ma 86	文化的野蠻人(ホリデイ叢書:[第2])
601.1/Ta 78	地域をプロデュースする仕事	949.8/J 23	ようこそ!ムーミン谷へ：ムーミン谷博物館コレクション
610.4/Ka 77	現代農学論集	949.803/J 23	ムーミン童話の仲間事典：クイズ集付き
629.23/Ke 37	ジヴェルニー：モネのアトリエを訪ねて	949.803/J 23	ムーミン童話の世界事典：クイズ集付き

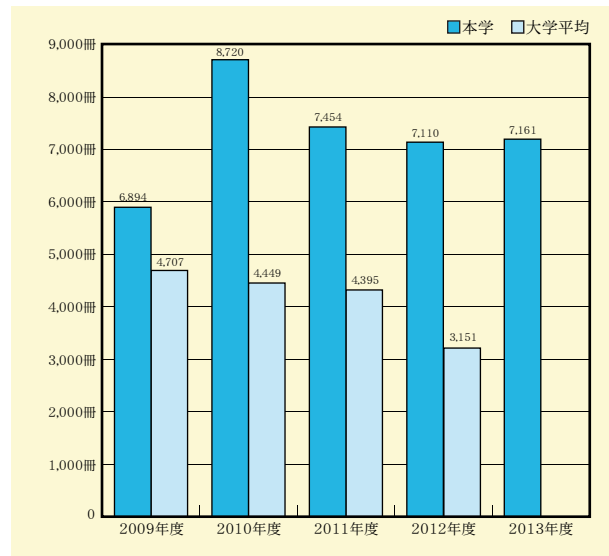
(計 106冊)

図書館・情報センターの蔵書数および利用状況

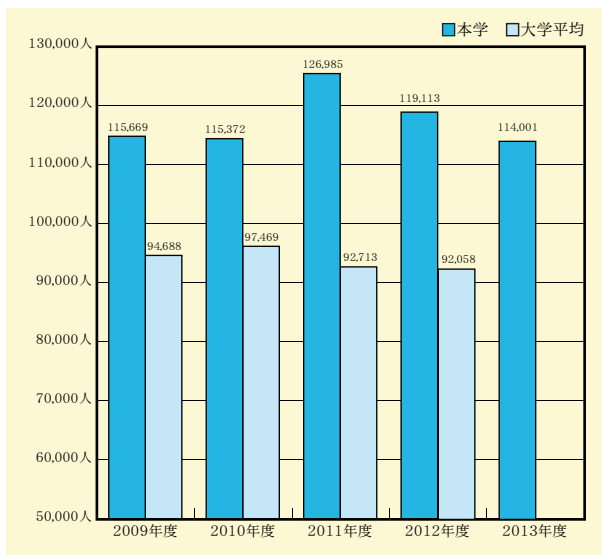
◎蔵書冊数



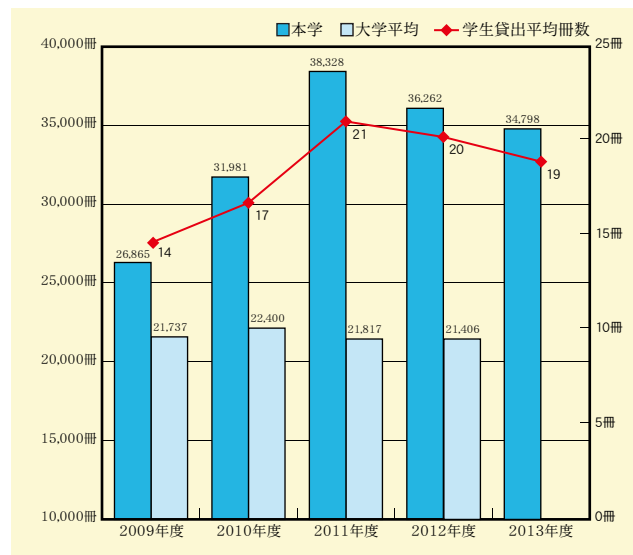
◎受入冊数



◎入館者数



◎館外貸出冊数



「大学平均」は『日本の図書館：統計と名簿』より算出

○蔵書

2014年3月現在、当センターの蔵書数（図書、製本雑誌、視聴覚資料）は23万冊を超えました。また、2013年度の年間受入冊数は約7,100冊で、2012年度とほぼ同じでした。

○閲覧

2013年度は、入館者数、貸出冊数とも、2012年度に比べて4～5%ほど減少しました。また、学生1人あたりの年間貸出冊数は約19冊で全国平均を大きく上回り、引き続き高水準を維持しました。

※くわしい情報は図書館・情報センターのホームページで！

編集後記

今年度から学生証と教職員証がICカードになり、図書館・情報センターでも入退館システムと自動貸出返却装置（ABC）をICカードに対応できるように改修しました。また、本学の学術成果を学外へ発信するために学術リポジトリも公開しました。Web履修登録が始まり、本学のシラバスもWebに公開され、2015年4月にはデザイン学部の再編と新カリキュラムが始動します。いろいろ変化するSUACの中で、歩調をあわせて図書館・情報センターも変化しつづける必要があると感じています。（F.K.）